



八溝山周辺地域
定住自立圏



心を温める
紅葉のぬくもり

江戸時代には天領として栄え、そのころから湯治として名高い湯岐温泉は歴史を超えて訪れた人々を癒し続けております。森林面積が多くを占める地形と本州では珍しいダムのない一級河川である久慈川が織りなす独特の文化があります。町の花ダリアの美しさは心に潤いを与えてくれます。



道の駅はなわ



ふるさとカフェ矢塚分校



湯遊ランドはなわ

おすすめコース なぐらがわけいこく やつかぶんこう ゆうゆう
道の駅はなわ → 那倉川溪谷 → 矢塚分校 → 湯遊ランドはなわ

道の駅はなわ天領の郷 てんりょう さと

地産地消の新鮮な野菜をはじめ、お惣菜、特産品まで豊富な品ぞろえを誇ります。すぐ傍には久慈川が流れ、風光明媚な景色もおすすです。入り口を入ってすぐ右側に観光案内所があり、町のPRや案内をしています。レンタサイクルやイーバイクのレンタルもしています。

おすすめはこれ!!
新鮮野菜

地元の農家さんによる獲れたて新鮮な野菜が店頭に並びます。



福島県東白川郡埴町埴桜木町388-1
営業時間 9:00~18:00
TEL 0247-44-0123

ふるさとカフェ矢塚分校

標高700メートルにある廃校、“矢塚分校”。集落の仲間たちの手で、ふるさとカフェとして生まれ変わりました。阿武隈山地のなか、埴のまちから40分のドライブです。山と畑のめぐみをおすそわけ。山のとっぺんの空気といっしょに味わってください。

おすすめはこれ!!
なべ焼きうどん

地元のベテランママさん手作りです。身も心も温まります。



※お越しいただく際には、事前にご連絡をお願いします。

福島県東白川郡埴町大字那倉字矢塚1
営業時間 土・日11:00~15:00
TEL 090-3125-3644

湯岐温泉湯遊ランドはなわ ゆじまおんせん

「若返りの湯」と呼ばれる秘湯と豊かな自然に、標高540mの山の上からの眺望は、春の新緑、夏の涼風、秋の紅葉、冬の満点の星座と、四季折々々に私たちを楽しませてくれます。湯岐温泉を源泉としたアルカリ泉は、古くからこの地で愛されてきた秘湯中の秘湯です。

おすすめはこれ!!
健回炉 けんかいろ

岩盤浴より、マイナスイオン効果が高く、リラックスできます。



福島県東白川郡埴町大字湯岐字立石21-1
営業時間 日帰り入浴 10:00~21:00
TEL 0247-43-3000

9/13 いつまでもお元気に

長寿、百寿のお祝い



生田目 富治 様



菊池 こう 様



高桑 平 様



中津川 乃武 様

9月13日に、今年度100歳以上の敬老祝金対象者のうち、4名の方を市長が訪問しお祝いしました。

市からの敬老祝金や記念品のほか、画家の益子 学司 氏(実取)から寄贈いただいた肖像画や、増村園芸の増村 英樹 氏(南金丸)から寄贈いただいた千日紅の鉢植えなどを贈呈しました。



9/15 ウエストコビナからメッセージが届きました！

令和5年度青少年交流事業



The Yoichi polo shirts bring me back lots of fun memories in Ohtawara. At the end of this program, I feel like I have connected more with the Japanese culture. I hope to see my host family again.

(Daisuke Sario)

訳: 与一のポロシャツを見るたびに大田原市での沢山の思い出が浮かんできます。このプログラムを通して日本の文化をもっと理解できるようになりました。またホストファミリーに会いたいです。

9/13 子ども達の交通安全を見守りたい

こくみん共済coop<全労済>横断旗寄贈



こくみん共済coop<全労済>より横断旗600本が寄贈されました。この活動は、未来ある子ども達をみんなで事故から守ることを目的とした「7才の交通安全プロジェクト」の取り組みの一つとなります。こくみん共済coop<全労済>の協力団体における車の補償点検数とマイカー共済の見積もり件数に応じた横断旗の寄贈となりました。

当日は、こくみん共済coop<全労済>の二ノ宮 氏から篠山教育長へ寄贈されました。

9/16 お魚つかまえた！

こども祭りアユつかみ取り



芭蕉の里くろばね鮎釣り大会と同日に、那珂川河川公園に特設されたプールでアユのつかみ取りが開催されました。

2歳から11歳の子ども31名が、プールに放流されたアユとヤマメのつかみ取りに挑戦。水の中をスイスイ泳ぐ魚たちに最初は苦戦していた子どもたちでしたが、最後にはつかみ取りに成功していました。

手の中でバタバタと暴れる魚の力強さを通して、命の逞しさに触れる体験となりました。

9/15 手作りかるたで遊びながら防災を学ぼう

防災かるたの寄贈



栃木県防災士 大貫 晴男 氏が、小学生と一般向けの手作りの防災かるたを寄贈するために、市長を訪問しました。かるたで遊びながら、防災の知識や心構えを身に付けられるような内容です。また、防災だけでなく、減災や地球温暖化についても学べるようになっています。

防災かるたは、学校での防災に関する授業や、市の防災啓発で活用させていただきます。

9/23 目指せ、未来の日本代表！

第99回天皇杯2次ラウンド観戦にご招待



プロバスケットボールチーム「宇都宮ブレックス」によるホームゲームおよび主管ゲーム招待事業の一環として、西原ツイスターズの選手達が、県北体育館で行われた天皇杯2次ラウンドに招待されました。

この企画は那須マテリアル株式会社(大田原市北金丸)の協賛により実施され、試合に先だって行われた贈呈式では、代表取締役の星氏からチームへ招待チケットの贈呈が行われました。

9/23 古墳にドキドキ

上侍塚古墳発掘調査現地説明会



栃木県が令和3年度から「いにしえのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」事業として発掘調査を進めている国指定史跡上侍塚古墳において、現地説明会が開催されました。

侍塚古墳は水戸藩主・徳川光圀の命により元禄5年(1692)に日本初の学術的な発掘調査が行われた「日本考古学・発祥の地」とも言われています。

当日は、古墳を覆う葺石や盛り土の様子、昨年度出土した土器の説明が行われ、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

漢詩集『笠石懐古』の全訳成る

投稿者：大田原市文化財保護審議会 会長 大沼 美雄

私は黒羽田町の生まれです。大学・大学院で中国文学を学び、今は栃木県漢詩連盟の会長として漢詩の創作などにいそしんでいます。

明治12年(1879)1月12日、八塩の三田称平(号は地山)らをはじめとする元黒羽藩士・元大田原藩士たち計20名は国宝「那須国造碑」を題材に黒羽向町のある料亭で漢詩を詠みました。大田原にはそれら31首を集めた漢詩集『笠石懐古』が長らく伝わっていましたが、このたびそれを144年ぶりに全訳させていただきました。製本したものを湯津上の笠石神社に置いていただいております。

問 大沼 美雄 TEL 0 2 8 7 (3 7) 7 2 7 6



左：大沼 美雄氏 右：笠石神社 宮司 伊藤 克夫氏

『みんなのひろば』投稿募集

問 情報政策課 TEL 6階 TEL 0 2 8 7 (2 3) 8 7 0 0
E-mail: jouhou@city.ohatawara.tochigi.jp

●応募方法

Eメールに写真を添付し、本文に次の①～⑥を記入して情報政策課にお送りください。

①コーナー名

- ・我が家の『○○』(家族や自慢のレシピなどの紹介)
- ・いいところ撮り(市内の風景・イベント写真の紹介)
- ・大田笑人(市内で活躍する個人・団体の紹介)

②写真のタイトル

③コメント(200文字程度)

④氏名とペンネーム(本名掲載を希望の場合は不要)

⑤住所(番地も記入。紙面には大字のみ掲載します。)

⑥電話番号

●注意事項

- *原則として受付順に掲載しますが、応募多数の場合は過去に一度も掲載されていない方を優先します。
- *掲載回数の上限は1人につき月1回かつ同一年度内3回までとし、2号連続しての掲載は行いません。
- *掲載された場合の謝礼はありません。

●掲載できない記事

- ・市の品位、公共性または公益性を損なうおそれがあるもの
 - ・政治的、宗教的または選挙活動に当たるもの
 - ・営利を目的とするもの
 - ・個人、団体を誹謗中傷するもの
- ※詳しくは、市HPをご覧ください。



市史編さんだより vol.37

現代部会調査速報⑩
～大田原での気象観測の歴史～

氷点下16.4度！今年1月26日の最低気温は、まさに目・耳を疑う数値でした。それまでの最低気温は、昭和52年(1977)2月1日の氷点下11.9度でしたので、驚きの数値と言えます。この大田原の気象観測を行っているのが、市内宇田川の大田原グリーンパーク西側の一面に設置されている、アメダス(地域気象観測システム)の大田原観測所です。今回の現代部会調査速報では、大田原での気象観測の歴史を振り返ります。

明治24年(1891)、当時の郡役所に寒暖計・雨量計を設置し、1日1回、午前10時に簡易気象観測を行ったのが大田原での気象観測の始まりです。その後、昭和29年(1954)11月1日に、龍城公園北側に宇都宮測候所の大田原雨量通報所が設立され、翌年6月に職員による本格的な気象観測が始まりました。

昭和31年(1956)に宇都宮測候所大田原気象通報所と改称し、気象観測のみならず地元への気象情報の提供を行ってきました。昭和49年(1974)11月1日にアメダスが開始。昭和51年(1976)にはアメダス大田原観測所が福寿荘(現在の福寿草ほほえみセンター)敷地内に移転となり、翌年4月18日に大田原気象通報所は20年の歴史を閉じました。その後、平成13年(2001)に大田原グリーンパークが誕生すると、アメダス大田原観測所はこちらへ移転となり、現在に至っています。(現代部会長 木下 義文)



令和5年1月26日の氷点下16.4度の朝



大田原気象通報所(昭和51年撮影)



現在のアメダス大田原観測所

問 文化振興課 TEL 0 2 8 7 (4 7) 5 0 3 1